府立阿武野高等学校
校長　　田中　忠一

令和７年度　学校経営計画及び学校評価

１　めざす学校像

生徒一人ひとりの「生きる力」「進路を切り開く力」の伸長を図る地域と密接に連携した教育活動により、地域社会に貢献できる能力と豊かな人間性を持つ人材を育成し、地域に信頼される高校をめざす。
１　「わかる授業」を通して、基礎学力の定着と社会的自立に必要なスキルと態度を育成する。
２　キャリア教育の充実に努めると共に、自立支援コース並びに専門コース等において特色ある教育活動を展開し、主体的に進路実現できる生徒を育成する。
３　教育活動全体を通じて、規範意識、人権意識の向上を図るとともに、地域との交流・連携を深め、全ての生徒にとって学校が安全で安心な居場所となることをめざす。

２　中期的目標

１　確かな学力の育成と授業改善
（１）「わかる」、「できる」、そして「学び合える」学習者主体の授業を行い、自ら学ぶ生徒を育てる。
　ア　「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業実践を進め、生徒の基礎学力の向上とともに、円滑な人間関係の形成を支援する。
　イ　ICT 機器を効果的に活用して、ユニバーサルデザインの視点を活かした授業や「個別最適な学びと、協働的な学び」を進める。
　ウ　生徒の学習意欲を高める評価方法を研究し、自己肯定感が高まる授業、「わかる」、「できる」と実感できる授業をめざす。
　エ　「阿武野プロジェクト」を中心として、教員相互の授業見学、他校や中学校の授業見学、授業アンケートを効果的に活用して組織的に授業改善に取り組み、教員の授業力の向上を図る。
　オ　国際交流事業、英語検定等を活用し、国際理解教育を推進する。
　※　授業アンケートにおける興味関心、知識技能に係る生徒の満足度(Ｒ４:88%、Ｒ５:85%、Ｒ６:84.6%)を上昇させ、令和９年度には 90%以上にする。
　※　教育産業における学力生活実態調査において、学習習慣上昇者の割合（Ｒ４:40.5%、Ｒ５:35.8%、Ｒ６:38.7%）を令和９年度には 40%以上にする。
　※　「生徒１人１台端末の効果的な活用」(Ｒ４:90.7%、Ｒ５:93.1%、Ｒ６: 94.8%)を増加させ、令和９年度には 95%以上にする。
（２）学習環境の整備、授業規律の確立を図る。
　ア　学習環境整備、授業準備、授業規律の指導を徹底し、授業に集中できる環境を整える。

２　進路意識の高揚とコース制の充実
（１）進路指導部と学年が協力して、３学年間を見通した系統的なキャリア教育を実施し、主体的に進路を選択し実現できる生徒を育てる。
　ア　総合的な探究の時間(ライフ・プランニング＝LP)、LHR(ロングホームルーム)において、系統的・継続的なキャリア教育の充実を図る。
　※　進路決定率(Ｒ４:98%、Ｒ５:99%、Ｒ６:99%)を上昇させる。
　※　学校紹介就職内定率は 100%(Ｒ４:100%、Ｒ５:100%、Ｒ６:100%)を維持する。
（２）「自立支援コース」「スポーツ専門コース」「福祉・保育専門コース」をはじめ、すべての教育課程において、進路実現につながる特色ある教育活動を展開し、望ましい勤労観・職業観、基礎的・汎用的能力を養う。その際、島本高校との機能統合を意識して教育活動に取り組む。
　ア　コース毎に、生徒の実態や保護者のニーズに応じた教育内容の充実を図り、進路実現に導く。
　イ　コースの特色に応じて多様な教育活動を展開し、地域との交流・連携を深める。

３　安全で安心な学校生活の中での規範意識と自尊感情の育成
（１）すべての教育活動を通じて安全・安心に学べる環境づくりを行い、規範意識、自尊感情、人権意識の高揚に努める。
　ア　規範意識の高揚、基本的生活習慣の確立を図るため、登校時の校門指導を強化し、一貫した生徒指導を行う。
　イ　LP、LHR において、様々な人権課題や集団づくり、アサーション・トレーニング、デジタル・シティズンシップ等の学習を計画的に実施し、人権尊重に貫かれた教育を徹底し、いじめや差別の未然防止に努める。
　ウ　インクルーシブ教育の理念に基づいた「ともに学び、ともに育つ」教育、並びに地域の学校、諸団体との交流・連携を推進し、社会貢献を体験することで、社会の一員としての自信や誇りと「自尊感情」を育てる。
　エ　大規模災害への備えと緊急事態発生時の迅速に対応できる校内体制の強化を図るとともに、防災教育、交通安全教育を計画的に継続して行う。
　※　遅刻について、前年度比５%の減少を図る。
（２）生徒の自主的活動を支援し自尊感情を育成するとともに、自らを律し他人を思いやる心を育てる。その際には、生徒を「褒めて育てる」「スモールステップで育てる」を意識する。
　ア　学校行事、生徒会活動の活性化を図る。
　イ　部活動の活性化を図る。
　ウ　様々な生活背景や課題を抱える生徒を学校全体で受け止め、一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な支援の充実を図る。
　※　部活動加入率(Ｒ４:43.9%、Ｒ５:49.5%、Ｒ６:53.9%)を上昇させ、令和９年度には 55%以上にする。

４　地域の信頼感を高め、学校教育活動を活性化する学校力の向上
（１）阿武野高校の魅力を発信し、地域の信頼感を高める。
　ア　中学校訪問、中高連絡会、学校説明会等を計画的、組織的に実施し、地域の信頼感を高める。
　イ　学校教育活動全般について、適切な情報発信に努め、保護者、地域との信頼関係を高める。
（２）組織的、継続的に学校力の向上を図る。

５　校務の効率化と働き方改革
（１）生徒と向き合う時間を確保するため、ICT を活用して校務の効率化を図る。
　ア　グループウェア、学習支援クラウドサービス等を活用することで、校内の連絡、周知事項の徹底、意見交換を促進し、業務時間の縮減を図る。
　イ　業務について方法や分担の見直しを行い、改善可能なものから実行するとともに、校内組織の見直しを進めていく。
（２）働き方改革の取組を進め、教職員のワークライフバランスの充実を図る。
　ア　時間外在校時間の縮減、年休取得の推進など、長時間勤務が解消できるよう努める。
　イ　生徒のみならず、教職員にとっても安全・安心な学校となるよう努める。
　　「教職員間の相互理解、信頼関係」(Ｒ４:97.3%、Ｒ５:100%、Ｒ６:93.3%)を令和９年度には 95%以上にする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析［令和　　年　　月実施分］	学校運営協議会からの意見

府立阿武野高等学校

３　本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R６年度値]	自己評価
１　確かな学力の育成と授業改善	（１）「わかる」「できる」「学び合える」授業をめざした授業改善 ア　主体的・対話的で深い学びの実現 イ ICT 機器の効果的な活用・深化 ウ　学習意欲を高める評価方法の工夫 エ　校内研修の充実 オ　国際交流等による異文化理解、英語力の向上 （２）学習環境の整備と授業規律の確立 ア　授業に集中できる環境の整備	（１） アイウ ・生徒の実態・学習状況に基づいて、学習指導と生徒指導を一体化した授業づくりを行い、自尊感情が高まり、やればできると実感できる授業を行う。 (授業を通じた生徒指導、ポジティブな行動支援、楽しくわかる授業、一人ひとりが活躍できる・互いの意見を認め合う場を設定した授業) ・１人１台端末や学習支援クラウドサービスを効果的に活用して、自ら学ぶ力の育成、家庭学習の習慣化、基礎学力の定着・向上に取り組む。 (授業のユニバーサルデザイン、アクティブ・ラーニング（AL)、個別最適な学びと協働的な学び) エ・「阿武野プロジェクト」（あぶプロ）が中心となり、授業規律、学習形態や学習内容、評価方法の工夫等をテーマにした校内研修を実施し、課題と成果を全校で共有する。 オ・国際交流事業や英検受検等を通じて、英語力と多様性尊重の態度を育む。 （２） ア・学習環境の整備、授業準備、授業規律の指導を各学年団で徹底し、授業に集中できる環境を整える。 ・担当分掌を中心に全教職員で日々の校内美化を推進。 特に、行事前後や学校説明会などの清掃活動時には重点を置く。	（１）アイウ ・興味関心、知識技能に係る授業アンケート満足度を前年度[84.6%]より向上させる。 ・教育産業における学力生活実態調査において、学習習慣上昇者の割合を前年度[38.7%]を向上する。 ・学校教育自己診断[生徒]「生徒１人１台端末の効果的な活用」を前年度[94.8%]より向上させる。 エ・校内研修を３回以上実施［３回］ オ・オンライン国際交流や対面国際交流事業の活性化。 ［オンライン国際交流実施できず、対面国際交流事業生徒４名参加］ （２） ア・学校教育自己診断[生徒]における「私語が少なくしっかり授業を聞く」の肯定的評価を前年度[72.9%]より向上させる。 ・同「クラス清掃をきちんとする」の肯定的評価を前年度[81.3%]より向上させる。	
２　進路意識の高揚とコース制の充実	（１）主体的に進路を選択し実現できる生徒の育成 ア　系統的・継続的なキャリア教育の推進 （２）自立支援コース、専門コース、選択科目等の教育内容の充実	（１） ア・ライフプランニング(LP)、LHR が３学年間を見通した系統的・継続的なキャリア教育として充実するよう、進路指導部・各学年・人権教育担当分掌で協議・検討し、より良いキャリア教育プログラムに改善する。 ・進路指導部・教務部・各学年団が協力して、補習・講習等を実施し、生徒の主体的な進路選択を支援する。 （２） ア・専門コースや選択科目が生徒の進路に結びつくよう、教育内容の充実を図る。 イ・地域諸団体との交流・連携を推進し、進路意識の高揚を図る。	（１） ア・学校教育自己診断[生徒]における「進路や職業について学ぶ機会がある」の肯定的評価を前年度[95.2%]より向上させる。 ・２年生の進路目標確定100%を維持。[100%] ・卒業時進路決定率を前年度[99%]をより向上させる。 ・学校紹介就職内定率100%を維持。 ・進路指導部３年アンケートの「進路満足度」の肯定的評価の割合100%をめざす。 （２） ア・同「専門コースの授業に満足」の肯定的評価を前年度[87.0%]より向上させる。 イ・同「地域の方から学ぶ機会がある」の肯定的評価を前年度[87.2%]より向上させる。	
３　安全で安心な学校生活の中での規範意識と自尊感情の育成	（１）カウンセリングマインドをもった生徒指導と人権教育の推進 ア　規範意識の高揚と基本的な生活習慣の確立	（１） ア・全教職員が協力して登校時校門指導を行い、丁寧な遅刻、頭髪、制服の指導を行うとともに、挨拶ができる生徒を育てる。 ・生徒一人ひとりが「阿武野校生の代表」であるという自覚を持ち、責任ある行動、言葉遣いができるよう一貫した生徒指導を行う。 ・入学当初から中高連携を丁寧に実施し、一人ひとりを大切にするカウンセリングマインドを持った生徒指導を推進する。	（１） ア・年間延べ遅刻数 3,000 人以下を維持。[2,547 人] ・学校教育自己診断[教職員]「カウンセリングマインドのある生徒指導の実施」の肯定的評価を前年度[93.4%]より向上させる。 ・同[生徒]「指導の納得度」、[保護者]「生徒指導の方針に共感」の肯定的評価を前年度より向上させる。[各 65.5%、] 72.9%]	

府立阿武野高等学校

	イ　いじめや差別の未然防止	イ・「障がい理解学習」、「学年開き」「クラス開き」、情報モラル(SNS との関わ方)、ソーシャルスキルの獲得を含む学習を計画的に実施し、違いを認め合い多様性を尊重する人権教育と集団育成を実践する。 ・問題行動の未然防止に取り組み、社会的自立に必要なスキルと態度を育成する。	イウ ・同[生徒]「人権の大切さを学ぶ機会がある」の肯定的評価を前年度[95.6％]より向上させる。 ・同「学校へ行くのが楽しい」の肯定的評価を前年度[79.1％]より向上させる。	
	ウ　社会貢献活動と地域交流の推進	ウ・社会貢献活動「あぶねっと」やクラブ等による地域交流、ボランティア活動等により、社会の一員としての自信や誇りと「自尊感情」を育てる。		
	エ　防災教育、交通安全教育の推進	エ・地域や関係機関と連携して、実践的な防災教育、交通安全教育を計画的に行う。 ・自転車運転ルールの順守、マナーの向上について、交通安全テスト等を活用し、定期的な注意喚起を行う。	エ・防災教育、交通安全教育の実施。[３回]	
	(２)生徒の自主的活動の充実	(２) ア・学校行事や生徒会活動の活性化を図る。 生徒が主体的に活動する機会の創造や取り組みの工夫を行い、成就感・達成感を体感させるとともに自尊感情を育てる。 イ・部活動の活性化を図る。 クラブ員集会、リーダー講習などによる連帯感の醸成。部活で頑張る生徒の存在感を高める。地域連携の維持、強化。 ウ・教育相談委員会体制をさらに充実し、生徒支援力を高める。 ・ケース会議を通じて、SC(スクールカウンセラー)、SSW (スクールソーシャルワーカー)、福祉・行政の関係機関との連携を推進し、一人ひとりの教育的ニーズに対応できるよう、よりよい支援体制を整備していく。 ・教育相談、キャリア教育、支援教育それぞれの分野の垣根を越えた包括的な支援体制づくりをめざして、保健室、スマイル（教育相談室)、図書室などで多様な生徒の居場所を確保し、多面的な生徒支援を行う。	(２) ア・同「学校行事満足度」の肯定的評価を前年度[87.6％]より向上させる。 イ・部活動加入率を前年度[53.9％]より向上させる。 ・生徒会や部活動による地域交流回数 30 回以上を維持する。 前年度[57 回]。 ウ・「個別の教育支援計画」の作成と適切な支援。 ・同「先生や保健室・相談室などで、相談することができる。」の肯定的評価を前年度「69.4％」より向上させる。	
４　地域の信頼感を高め、学校教育活動を活性化する学校力の向上	(１)広報活動の強化	(１) ア・中学校訪問、中高連絡会、学校説明会等を計画的、組織的に実施する。 イ・学校ホームページや公開授業を通じて、保護者や中学校の先生方に本校生徒の高校生活や授業の様子など教育活動を発信する。 ・文書、保護者メール、ホームページ等を使って保護者との連絡をより密接に行い、学校との信頼関係を向上させる。	(１) ア・学校説明会等の計画的、組織的実施 12 回以上。前年度[29 回] イ・学校教育自己診断[保護者]「教育情報提供満足度」の肯定的評価を前年度[77.7％]より向上させる。	
	(２)組織的、継続的な学校力の向上	(２) ・日常的な OJT の推進に努め、経験年数の少ない教職員の育成体制の充実を図る。 ・府教育センターや各研究団体等の研修を活用し、伝達研修の充実を図る。	(２) ・伝達研修を含む職員研修の実施 12 回以上。 [12 回] ・同[教職員]「経験年数の少ない教職員をフォローする体制」の肯定的評価を前年度[68.7％]より向上させる。	
５　働き方改革の推進と教職員のワークライフバランスの充実	(１) ICT による校務の効率化	(１) ア　・校務処理システムやグループウェア、学習支援クラウドサービスを活用することで、情報の一元管理、ペーパーレス化を進める。家庭との連絡、校内の連絡、周知事項の共有・徹底、教職員間の意見交換等を促進し、業務時間の縮減を図り、生徒と向き合う時間を確保する。 イ　・削減可能な業務の洗い出しを行い、可能なものから実行するとともに、校内組織の見直しを進めていく。	(１) アイ ・学校教育自己診断［教職員］「教職員の相互理解、信頼関係を前年度［93.3％］より向上させる。	
	(２) 働き方改革の推進、教職員のワークライフバランスの充実	(２) ア　・時間外在校時間の縮減、年休取得の推進など、長時間勤務が解消できるよう努める。 イ　・生徒のみならず、教職員にとっても安全・安心な学校となるよう努める。 ・OJT の充実や ICT の導入によって業務の効率化を進め、ストレスチェック制度の有効活用も行い、教職員の負担感軽減を図る。	(２) アイ ・教職員一人あたりの平均時間外在校時間 30h 以内[33.8h(12 月末現在)] ・ストレスチェック結果の総合健康リスクが事業場全体より下位を維持する。[86(教育庁全体 98)]	